

わくわく学びの街・下関

下関市教育委員会 生涯学習課
社会教育主事だより
令和6年9月27日



わくわく科楽少年隊「ほねについて、まなボーン」



土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムで「ほねについて、まなボーン」をテーマに第4回のわくわく科学少年隊を開催しました。当館学芸員の大藪由美子氏、沖田絵麻氏、矢都村典子氏が講師を務め、日本人の顔の成り立ちや、土井ヶ浜遺跡から出土した人骨の観察、子供と大人の骨の数や骨の成長の仕方、骨による男女の見分け方などについて学びました。中でも、人骨を並べるゲーム、「ほねほねパズル」では保護者も思わず参加してしまう程白熱しました。

子供たちから「歯は骨ですか？」「大人と子供の骨の中の空洞に差はありますか？」「弥生人と現代人の違いに特徴はありますか？」と大人顔負けの質問が相次ぎ、議論を深めようとする姿勢が、大人たちにとって骨に沁みただことでしょう。

学びの社会教育人材「社会教育士」誕生



様々な地域や社会課題が山積する中、文部科学省は「学び」を通して、豊かな地域づくりへの展開を支援する専門人材として「社会教育士」に期待しています。

社会教育士は、社会教育の制度や仕組み、基礎的な知識に加え、①ファシリテーション能力、②プレゼンテーション能力、③コーディネート能力の専門性の習得をねらいとした課程や講習を修了者の称号です。行政職員や学校教職員だけでなく、NPO、社会教育関係団体、企業、PTAなど多様な方が受講しています。詳しくは、下記のQRコードから文部科学省「社会教育士」ページをご覧ください。下関市では、今年度3名の「社会教育士」が誕生しました。感想を紹介します。



地域コミュニティの活性化
～学びを通じた人づくり・つながりづくり・地域づくり～



文部科学省HPより

どの講義も目から鱗の連続だった。学生時代には感じたことのない、「学ぶ楽しさ」を存分に味わうことができた。小学校教員（対面受講）

異なる立場の人と交流するなかで、今後の地域連携教育のあり方について再認識し、幅広い視点で学校教育をとらえることができた。小学校教員（オンライン受講）

収益をあげ、事業を継続させるために、社会教育事業の収益化について考えた。講義を通して、事業継続のヒントを得ることができた。自分の強みと独自性を生かし、地域に還元していきたい。自営業（オンライン受講）